



# N1 Grid Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリ リースノート (WebLogic 8 Plug-In 1.0)

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-2763-01  
2005 年 6 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、Java、N1、JavaBeans、EJB、Java Naming and Directory Interface は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Adobe は、米国 Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: N1 Grid Service Provisioning System User's Guide and Release Notes for the WebLogic 8 Plug-In 1.0

Part No: 819-1394-10

Revision A



050606@11223



# 目次

---

- はじめに 9
  
- 1 **WebLogic 8 プラグインの概要 13**
  - WebLogic 8 プラグインの目的 13
  - WebLogic 8 プラグインの内容 13
  - WebLogic 8 プラグインを使用するための要件 14
  
- 2 リリースノート 17
  - 実行時の問題 17
    - クラスタの起動と停止が失敗する (6243101) 17
  
- 3 **WebLogic 8 プラグインのインストールと構成 19**
  - WebLogic 8 プラグインの入手 19
  - WebLogic 8 プラグインの N1 Grid Service Provisioning System への追加 19
    - ▼ WebLogic ソフトウェアをインストールする 20
  
- 4 **WebLogic 8 プラグインの使用方法 23**
  - N1 Grid Service Provisioning System を使用した WebLogic 8 環境のインストール法および使用法 23
    - プラグインの規定 23
    - グローバルな必要条件 24
    - 処理の概要 25
  - WebLogic インフラストラクチャーの作成 26
    - ▼ WebLogic 8 ドメインと Administration Server を作成する 27
    - ▼ 異なるパスワードを使用して複数のドメインを作成する 29

▼ WebLogic Managed Server を作成する	30
▼ ライセンスコンポーネントを作成する	33
▼ ライセンスコンポーネントをインストールする	33
▼ WebLogic クラスタを作成する	34
▼ クラスタメンバーを作成する	36
WebLogic ドメイン、サーバー、およびクラスタの管理	37
WebLogic ドメインと Administration Server の管理	38
▼ WebLogic ドメインと Administration Server を削除する	38
WebLogic クラスタの管理	39
▼ クラスタを起動または停止する	39
▼ WebLogic クラスタを削除する	40
▼ WebLogic クラスタメンバーを削除する	41
WebLogic Managed Server の管理	42
▼ Managed Server を起動する	42
▼ Managed Server を停止する	43
▼ Managed Server を削除する	43
WebLogic アプリケーションの取得と編集	44
▼ WebLogic エンタープライズアプリケーションまたは EAR ファイルを取得する	44
▼ WebLogic Web アプリケーションまたは WAR ファイルを取得する	45
▼ WebLogic JAR ファイルを取得する	46
コンポーネントタイプを使用した WebLogic アプリケーションの配備	47
エンタープライズアプリケーション (EAR) コンポーネントタイプ	48
Web アプリケーション (WAR) コンポーネントタイプ	49
EJB コンポーネントタイプを含む Java アーカイブファイル	51
データソースおよびトランザクションデータソースのコンポーネントタイプ	52
接続プールのコンポーネントタイプ	53
マルチプールコンポーネントタイプ	54
スレッドプールコンポーネントタイプ	55
トランザクションサービスコンポーネントタイプ	56
JMS Server コンポーネントタイプ	56
メールセッションコンポーネントタイプ	57
CLI を使用した WebLogic の作業	58
N1 Grid Service Provisioning System コマンド行インタフェースの使用法	58
WebLogic コマンド行インタフェースの使用法	58
▼ N1 Grid Service Provisioning System を介して WebLogic コマンド行インタフェースを使用する	58
N1 Grid Service Provisioning System 内での WebLogic Server Scripting Tool の使用法	60

▼ WebLogic スクリプトコンポーネントを作成する	60
▼ WebLogic スクリプトコンポーネントをインストールする	61
プランの使用方法	62
障害追跡	62
WebLogic のインストールのエラーメッセージの例	63

索引	65
----	----



# 表目次

---

表 1-1	JRE の要件	15
表 1-2	WebLogic インストールメディアの要件	15
表 4-1	共通のタスク名	24
表 4-2	WebLogic エンタープライズアプリケーションのエラー状態	49
表 4-3	WebLogic Web アプリケーションのエラー状態	51
表 4-4	WebLogic EJB コンテナのエラー状態	52



## はじめに

---

このマニュアルでは、N1™ Grid Service Provisioning System ソフトウェアを使用して、次の作業を実行する方法を説明します。

- WebLogic 8 ソフトウェアのインストールとインフラストラクチャーコンポーネントの構成
- WebLogic へのアプリケーションの配備
- WebLogic 環境の構成

---

## 対象読者

このマニュアルの主な対象読者は、BEA WebLogic 8 の機能を N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに組み込む、N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ソフトウェアのシステム管理者およびオペレータです。これらのユーザーは、次のことに精通している必要があります。

- N1 Grid Service Provisioning System 5.0 製品
- 標準的な UNIX® と Windows のコマンドとユーティリティー
- BEA WebLogic 8 製品で使用できる一般的な概念と管理機能

---

## お読みになる前に

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアの使用に関して知識が十分ではないユーザーは、次のマニュアルをお読みください。

- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』

- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』

---

## 内容の紹介

第1章では、プラグインソリューションの概要を説明します。

第2章では、インストールと実行時の問題について説明します。

第3章では、プラグインのインストールおよび構成の方法について説明します。

第4章では、プラグインを介したアプリケーションとファイルの取得および配備の方法を説明し、プラグインに付属する特定のコンポーネントタイプについて説明します。

---

## 第三者の関連 Web サイト

このマニュアル内で参照している第三者の URL は、追加の関連情報を提供します。

BEA WebLogic 8 製品ドキュメントについては、  
<http://e-docs.bea.com/platform/docs81/> を参照してください。

---

注 - このマニュアル内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

---

---

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	<a href="http://jp.sun.com/documentation/">http://jp.sun.com/documentation/</a>	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよびトレーニング	<a href="http://jp.sun.com/supporttraining/">http://jp.sun.com/supporttraining/</a>	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

---

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% <b>grep</b> <b> '^#define</b> \  <b>XV_VERSION_STRING'</b>

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

## 第 1 章

---

# WebLogic 8 プラグインの概要

---

この章では、N1 Grid Service Provisioning System を使用した BEA WebLogic 8 アプリケーションのプロビジョニングに関する一般的な情報を説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 13 ページの「WebLogic 8 プラグインの目的」
- 13 ページの「WebLogic 8 プラグインの内容」
- 14 ページの「WebLogic 8 プラグインを使用するための要件」

---

## WebLogic 8 プラグインの目的

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアは、BEA WebLogic 8 アプリケーションをサポートする高度な機能を提供します。プロビジョニングソフトウェアを使用してドメイン、管理サーバーおよびクラスタをインストールすることにより、WebLogic 8 インフラストラクチャーをプロビジョニングできます。いったんインストールすれば、管理サーバーとドメインを起動/停止することにより、WebLogic 環境を管理できます。また、既存のアプリケーションをブラウズして、以前にインストールしたアプリケーションを取得したり、企業全体にこれらのアプリケーションを配備することもできます。

---

## WebLogic 8 プラグインの内容

WebLogic 8 プラグインにはいくつかの WebLogic 固有のコンポーネントタイプのほかに、定義済みのコンポーネントとリソースファイルが含まれています。これらの定義済みのコンポーネントとリソースファイルを使用すると、WebLogic Enterprise、Enterprise JavaBeans™ (EJB™) テクノロジー、および Web アプリケーションを簡単に入手、構成、および配備することができます。これらのコンポーネントタイプは次の 3 つのファミリーに分類できます。

- WebLogic ソフトウェアをインストールするコンポーネント
- WebLogic サービスをサポートするコンポーネント:
  - WebLogic Administration Server
  - WebLogic Managed Server
  - WebLogic クラスタ
- エンタープライズアプリケーション、Web アプリケーション、および Java アーカイブファイルをインストールするためのプラン。
- WebLogic 8 アプリケーションサーバー上で配備を行うため、アプリケーションを配備および取得する特別なコンポーネント
- WebLogic 8 サービスを構成する特別なコンポーネントタイプ。
  - ライセンス – WebLogic ライセンスを配備できるようにする。
  - スレッドプール – スレッドプール構成を編集および配備できるようにする。
  - データソース – データソースを入手、編集、および配備できるようにする。
  - トランザクションデータソース – データソースを入手、編集、および配備できるようにする。
  - JMS サーバー – JMS サーバーを入手、編集、および配備できるようにする。
  - 接続プール – 接続プールを入手、編集、および配備できるようにする。
  - マルチプール – マルチプールを入手、編集、および配備できるようにする。
  - トランザクションサービス – トランザクションサービスを編集できるようにする。
  - WLScript – プロビジョニングシステムのインタフェース経由で WebLogic コマンドを実行できるようにする。

WebLogic 8 プラグインには、WebLogic Administration Server、Managed Server、およびクラスタをインストールおよび削除するいくつかのプランも含まれています。

---

## WebLogic 8 プラグインを使用するための要件

WebLogic 8 プラグインは、次のプラットフォームの WebLogic Server Version 8.1 をサポートしています。

- SPARC 版 Solaris 8
- SPARC 版 Solaris 9
- x86 版 Solaris 9
- RedHat Linux AS 2.1
- RedHat Linux AS 3.0
- AIX 5.1 および 5.2

WebLogic 8 プラグインの配備先ホストは、次の要件を満たす必要があります。これらの要件は、インストールに関する最低限の必要条件です。

ディスク容量	UNIX システムでは、インストールされる製品には約 375M バイトの空きディスク容量が必要です。  /var/tmp ディレクトリには、インストーラにより約 1G バイトの一時ディスク容量が必要です。/var/tmp フォルダに空き容量が存在しない場合、altTempDir コンポーネント変数を使用して別の一時ディレクトリを作成します。詳細については、20 ページの「WebLogic ソフトウェアをインストールする」を参照してください。
RAM	512M バイト (最低限)、1G バイト (推奨)
Java run-time environment (JRE)	WebLogic Server のインストールプログラムは、実行に JRE が必要です。次の要件は、サポートされる構成の BEA のリストから要約したものです。完全なリストについては、BEA の WebLogic 8.1 製品マニュアル用 Web サイトを参照してください。

表 1-1 JRE の要件

	すでにインストールされている <b>Java SDK</b>	インストールに含まれる
AIX	IBM SDK 1.4.2	
RedHat Linux		WebLogic JRockit 1.4.2_04 SDK
Solaris x86	Sun Java 2 SDK 1.4.2_04	
Solaris SPARC		Sun Java SDK 1.4.2_04

表 1-2 WebLogic インストールメディアの要件

	バイナリインストーラ	JAR インストーラ	補助 JAR ファイル
AIX		X	
RedHat Linux	X		
Solaris x86		X	X
Solaris SPARC	X		

インストールされるアプリケーションに応じて、構成には追加リソースが必要となる場合があります。BEA の WebLogic の要件については、Web ページ「WebLogic Platform 8.1 Supported Configurations」([http://e-docs.bea.com/platform/suppconfigs/configs81/81\\_over/](http://e-docs.bea.com/platform/suppconfigs/configs81/81_over/))を参照してください。

## 第 2 章

---

# リリースノート

---

この章では、インストールと実行時の問題についての詳細を説明します。

---

## 実行時の問題

この節では実行時の問題を説明します。

### クラスタの起動と停止が失敗する (6243101)

プロビジョニングシステムを使用してクラスタの起動または停止を行う際に、クラスタ内の Managed Server の一部が実行中で、クラスタ内の Managed Server の一部が実行中ではない場合、プロシージャーが失敗します。Managed Server の実行時状態が一致せず、ユーザーがクラスタを停止しようとする、次のメッセージが表示されます。

```
Raise step performed with message: "Managed Server server-name
is not Stopped". (017149)
```

Managed Server の実行時状態が一致せず、ユーザーがクラスタを起動しようとする、次のメッセージが表示されます。

```
Raise step performed with message: "Managed Server server-name
is not running." (017149)
```

対処方法:クラスタ内の Managed Server で実行時状態が異なる場合にクラスタを起動または停止するには、Managed Server を個別に起動または停止します。その方法については、[42 ページの「WebLogic Managed Server の管理」](#)を参照してください。



## 第 3 章

---

# WebLogic 8 プラグインのインストールと構成

---

この章では、WebLogic 8 プラグインをインストールおよび構成する方法について説明します。次の内容について記載しています。

- 19 ページの「WebLogic 8 プラグインの入手」
- 19 ページの「WebLogic 8 プラグインの N1 Grid Service Provisioning System への追加」

---

## WebLogic 8 プラグインの入手

BEA WebLogic プラグインは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに対するプラグインとしてパッケージ化されています。プラグインは Java™ アーカイブ (JAR) ファイルにパッケージ化されています。BEA WebLogic プラグインのプラグインファイルは、N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Supplement CD または Sun Download Center から入手できます。

---

## WebLogic 8 プラグインの N1 Grid Service Provisioning System への追加

特定のプラグインを N1 Grid Service Provisioning System 製品に認識させるには、プラグインをインポートする必要があります。プラグインをインポートするには、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」で詳細が説明されている手順に従ってください。

1. メインウィンドウの「Administrative」セクションで「Plug-ins」をクリックします。

2. 「Plug-ins」ページの「Action」列で「Import」をクリックします。
3. com.sun.weblogic8\_1.0.jar ファイルをダウンロードした場所をブラウズします。
4. 「Continue to Import」をクリックします。

インポートが正常に完了した場合、ナビゲーションメニューの「Common Tasks」セクションには新しいアイコンが表示され、プラグインの「Details」ページが表示されます。「Details」ページには、プラグインに含まれるあらゆるオブジェクトが表示されます。

コマンド行からプラグインアーカイブファイルをインポートすることもできます。次のコマンドを使用します。

```
% cr-ctl -cmd plg.p.add -path com.sun.weblogic8_1.0.jar  
-u username -p password
```

## ▼ WebLogic ソフトウェアをインストールする

WebLogic ドメイン、Administration Server または Managed Server を作成する前には、WebLogic ソフトウェアをインストールする必要があります。WebLogic ソフトウェアをインストールする際には、ソフトウェアインストールを表す仮想ホストが作成されます。この仮想ホストは、WebLogic Administration Server および Managed Server のターゲットホストとして使用します。

Managed Server と Administration Server は同じ Install コンポーネントを使用します。このコンポーネントが Remote Agent に WebLogic 8 ソフトウェアをインストールします。Remote Agent に Install コンポーネントをインストールしたあとは、そのコンポーネントを再インストールする必要はありません。

この手順で WebLogic ソフトウェアをインストールしたり、markOnly オプションを選択することでプロビジョニングシステム 内部で既存のソフトウェアを登録することができます。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで「WebLogic 8」をクリックします。
  2. 「WebLogic Software Installation: Install」リンクをクリックします。  
プランの「Details」ページが表示されます。
  3. 「Run」をクリックします。  
「Run」ページが表示されます。
  4. 「Plan Parameters」領域で、配備する Install コンポーネントの変数設定を選択します。
    - このコンポーネントに対して変数設定が指定されている場合、メニューから適切な設定を選択します。

- メニューから設定が使用できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 変数設定の新しいセットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。  
次のリストに、Install コンポーネントに関して共通して更新される変数を示します。

変数セット名	必須。ユーザーが作成する新しい変数セットの名前
beaHome	必須。WebLogic BEAHOME のディレクトリ。beaHome のデフォルト値は /usr/local/bea です。1 台のマシンに複数の WebLogic ソフトウェアをインストールする場合は、この値を更新する必要があります。

---

注 - このディレクトリまたはリンクはすでに存在しているか、weblogicUser によって作成可能である必要があります。ディレクトリまたはリンクが存在している場合、weblogicUser にはディレクトリへの書き込みアクセス権が必要です。

---

sourceImage	すべての非 markOnly インストールで必須。WebLogic バイナリパッケージインストーラまたは JAR ファイルへの絶対パス。
x86supplementalJAR	Solaris x86 インストールのみで必須。WebLogic Solaris x86 Supplemental JAR ファイルへの絶対パス。
sdkJavaHome	AIX および Solaris x86 JAR ファイルインストーラのみで必須。SDK バージョン 1.4.2 またはそれ以降の JAVA_HOME。
componentPaths	任意。追加コンポーネントは、パイプで区切られたリストで指定できます。たとえば WebLogic Server WebLogic Workshop WebLogic Integration WebLogic Portal のように指定します。  デフォルトでは、WebLogic ドメインおよびアプリケーションサーバーの実行に必要なソフトウェアがインストールされます。追加コンポーネントを選択した場合、より多くの容量 (350M バイトより大きい値) が必要になります。

altTempDir	任意。インストールイメージを展開するための代替ディレクトリ。デフォルト値は /var/tmp ディレクトリです。/var/tmp/ ディレクトリに 1G バイトの使用可能な容量が含まれていない場合、altTempDir を別のディレクトリに設定します。
webLogicUser	必須。WebLogic インストールを実行する UNIX ユーザー。このユーザーはインストール先ホストに存在し、beaHome ディレクトリの書き込みアクセス権を有する必要があります。
targetRefName	必須。このインストールの一意の仮想ホスト名。この値はドメインと Managed Server の作成時にターゲットホストとして使用されます。WebLogic のインストールごとに、この変数に一意の値を指定する必要があります。

---

注 - 同じマシンで WebLogic ソフトウェアを複数回インストールする場合、この変数を新しい値に変更する必要があります。beaHome も、インストールごとに異なる必要があります。

---

- 別のコンポーネントから変数コンポーネントを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。  
変数セットのインポートの詳細については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5. ターゲットホストを選択します。  
Administration Server または Managed Server として使用する Remote Agent 上で WebLogic ソフトウェアをインストールします。
6. 「**Target Host Set**」チェックボックスをオフにします。
7. プロビジョニングシステム内の既存の **WebLogic** ドメインを取得する場合は、「**markOnly**」オプションを選択します。
8. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## 第 4 章

---

# WebLogic 8 プラグインの使用法

---

WebLogic 8 プラグインは複数の特別なコンポーネントタイプを提供し、BEA WebLogic 8 アプリケーションを使用した作業に便利な機能に簡単にアクセスできるようにします。この章では、次の内容について説明します。

- 23 ページの「N1 Grid Service Provisioning System を使用した WebLogic 8 環境のインストール法および使用法」
- 26 ページの「WebLogic インフラストラクチャーの作成」
- 37 ページの「WebLogic ドメイン、サーバー、およびクラスタの管理」
- 44 ページの「WebLogic アプリケーションの取得と編集」
- 47 ページの「コンポーネントタイプを使用した WebLogic アプリケーションの配備」
- 62 ページの「プランの使用法」
- 62 ページの「障害追跡」

---

## N1 Grid Service Provisioning System を使用した WebLogic 8 環境のインストール法および使用法

### プラグインの規定

プロビジョニングシステムを使用すると、アプリケーションのプロビジョニングと管理を行うことができます。

## プランとコンポーネントプロシージャ

WebLogic 8 プラグインは、タスクを実行するためのツールとしてプランとコンポーネントプロシージャの両方を提供します。プランを使用することで、目的の機能に直接リンクすることができます。コンポーネントプロシージャを使用することで、実行できるタスクの数がさらに多くなります。

## タスク名

WebLogic8 プラグインでは、タスクを4つのカテゴリ、つまりアプリケーションタスク、インフラストラクチャタスク、構成タスク、および高度なタスクに分類しています。これらのタスクカテゴリは、実行する必要があるタスクを記述する際に同じ規則に従います。

表 4-1 共通のタスク名

タスク名	説明
View Installations、View Configurations、View Clusters、View Cluster Members	特定のタイプのすべてのコンポーネントがインストールされている場所のリストを表示します。
View All	指定のフォルダ内の特定のタイプのすべてのコンポーネントを表示します。
Create	このタイプの新しいコンポーネントをプロビジョニングシステムに追加できる「component Details」ページへのリンクです。既存の WebLogic Admin Server からインポートすることで、またはファイルシステムをブラウズすることで、新しいコンポーネントを作成できます。
Start または Stop	Start または Stop コンポーネントプロシージャを実行する「component Details」ページへのリンク。
Install、Uninstall、Remove、Join、Leave	記述された機能を作成するプランを表します。

## グローバルな必要条件

本書で説明されている各タスクに関しては、2つの必要条件が存在します。

- WebLogic Administration Server は、数多くの処理の実行または確認に使用されます。そのため、WebLogic 8 環境を変更するタスクを実行するには、正しい接続情報が動作するプロビジョニングシステム内で Administration Server を構成する必要があります。

---

注 - WebLogic ソフトウェアのインストール時、WebLogic Domain の作成時、またはエンタープライズアプリケーション (EAR)、Web アプリケーション (WAR)、および Java アーカイブ (JAR) ファイルの作成時には、Administration Server はオンラインである必要はありません。

---

- プロビジョニングシステム内のすべてのタスクでは、ユーザーが特定のアクセス権を持っていることが必要になります。WebLogic プラグインを使用してタスクを実行するには、ユーザーは、コンポーネントが含まれるフォルダ上の Run Component Procedures アクセス権を有するユーザーグループに属する必要があります。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、Allow on Host Set アクセス権も必要です。

アクセス権の詳細については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の第 3 章「アクセス許可を使用したアクセスの制御」を参照してください。

グループメンバーシップの更新方法の詳細については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の「ユーザーのグループメンバーシップを変更する」を参照してください。

## 処理の概要

プロビジョニングシステム内に WebLogic 8 環境を作成する作業は、プロビジョニングシステムを使用せずに環境を作成する処理に似ています。

1. WebLogic 8 プラグインをインポートします。  
『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の「プラグインのインポート」を参照してください。
2. WebLogic セッション変数 WL\_DEFAULT\_PASSWORD および WL\_DEFAULT\_USER を設定します。  
『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 プランとコンポーネントの開発者ガイド』の第 5 章「セッション変数」を参照してください。
3. すべてのホストを準備します。  
WebLogic 8 プラグインには、プロビジョニングシステム内のすべてのホストに配布する必要がある新しいシステムサービスが含まれています。『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の「物理ホストの準備」を参照してください。
4. WebLogic ソフトウェアをインストールします。  
20 ページの「WebLogic ソフトウェアをインストールする」を参照してください。
5. Administrative Server をインストールすることで WebLogic ドメインを作成します。  
27 ページの「WebLogic 8 ドメインと Administration Server を作成する」を参照してください。

6. 新しい WebLogic ドメインで Managed Server を作成します。  
30 ページの「WebLogic Managed Server を作成する」を参照してください。
7. WebLogic ライセンスコンポーネントを作成し、インストールします。  
33 ページの「ライセンスコンポーネントを作成する」および33 ページの「ライセンスコンポーネントをインストールする」を参照してください。
8. (任意) WebLogic 8 クラスタを作成します。  
34 ページの「WebLogic クラスタを作成する」を参照してください。
9. (任意) 既存の Managed Server をクラスタに割り当てることにより、クラスタメンバーを追加します。  
36 ページの「クラスタメンバーを作成する」を参照してください。
10. 必要に応じて、データベースへのアプリケーションの接続を構成します。
  - a. 接続プールを構成します。  
53 ページの「接続プールのコンポーネントタイプ」を参照してください。
  - b. (任意) マルチプールを構成します。  
54 ページの「マルチプールコンポーネントタイプ」を参照してください。
  - c. データソースまたはトランザクションデータソースを構成します。  
52 ページの「データソースおよびトランザクションデータソースのコンポーネントタイプ」を参照してください。
11. アプリケーションが Java Messaging Service を使用している場合、JMS サーバーを構成します。  
56 ページの「JMS Server コンポーネントタイプ」を参照してください。
12. アプリケーションファイル (EAR、JAR、および WAR) を取得します。  
44 ページの「WebLogic アプリケーションの取得と編集」を参照してください。
13. ターゲットホスト、ホストセット、またはクラスタにアプリケーションを配備します。  
アプリケーションは、クラスタまたは Managed Server のいずれかをターゲットとすることができます。  
48 ページの「エンタープライズアプリケーションのインストール」、50 ページの「Web アプリケーションのインストール」、または51 ページの「JAR または EJB ファイルのインストール」を参照してください。

---

## WebLogic インフラストラクチャの作成

「WebLogic 8 Common Tasks」ページを起点として、WebLogic サーバーおよびクラスタの作成と管理を行います。

## ▼ WebLogic 8 ドメインと Administration Server を作成する

アプリケーションをホストする Managed Server を設定する前に、ドメインおよび Administration Server を作成する必要があります。ドメインは、Administration Server により管理される一連の WebLogic サーバーです。ドメインに関するすべての情報は、Administration Server 上に格納される構成ファイルに含まれています。

AdminServer コンポーネントをインストールすることで新しいドメインを作成する場合、次の作業も行います。

- ドメインの構成
- Admin Server の仮想ホストの作成

この手順で新しいドメインを作成したり、また「markOnly」オプションを選択することでプロビジョニングシステム内で既存のドメインを登録することもできます。

---

注 - 本書では、AdminServer と Administration Server という類似した用語を使用します。事前にパッケージされた N1 Grid Service Provisioning System WebLogic 8 コンポーネントは、AdminServer コンポーネントと呼ばれます。AdminServer はプロビジョニングシステムコンポーネントを表し、Administration Server は WebLogic 8 環境上で動作するインストール済みアプリケーションを表します。

---

始める前に WebLogic 8 ドメインを作成するには、ユーザーは、コンポーネントが含まれるフォルダ上の Run Component Procedures アクセス権を有するユーザーグループに属する必要があります。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、Allow on Host Set アクセス権も必要です。

- 手順
1. **WebLogic** セッション変数 `WL_DEFAULT_USER` および `WL_DEFAULT_PASSWORD` が設定されていることを確認します。

WebLogic セッション変数は、長さが7文字で、数字を含んでいる必要があります。

セッション変数の詳細については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 プランとコンポーネントの開発者ガイド』の第5章「セッション変数」を参照してください。

2. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
3. 「**Domain Management: Create**」リンクをクリックします。  
プランの「**Details**」ページが表示されます。
4. 「**Run**」をクリックします。  
「**Run**」ページが表示されます。

5. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する **AdminServer** コンポーネントの変数設定を選択します。

- このコンポーネントに対して変数設定が指定されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
- メニューから設定が使用できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 変数設定の新しいセットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。  
次のリストに、AdminServer コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

domainName	必須。WebLogic のドメイン名です。
adminPort	必須。AdminServer の仮想ホストが使用するデフォルトの TCP ポートです。  ドメインが作成される前には、このポートが使用可能であるかチェックされます。
secureConnect	任意。True Administration Server の接続に SSL ポートが使用可能であることを指定します。
production	必須。この変数は、管理サーバーを稼働モードで実行するかどうかを決定します。稼働のデフォルト値は false です。この値は true または false に設定できます。

更新される頻度が少ない変数には、次のような構成変数が含まれます。

adminManagedServer	必須。ドメイン管理コンソールをホストする管理サーバーの名前。デフォルト値は myserver です。markOnly インストールを実行している場合は、この変数を、WebLogic インストール中に使用されるサーバー名に設定します。
targetRefName	必須。この変数は、ドメインの仮想ホストの名前になります。代入変数は、ホスト名とドメイン名の値に基づきます。この変数は、:[ <i>target:sys.hostName</i> ] <i>_weblogic_admin_</i> :[ <i>domainName</i> ] という形式に従います。たとえば、sqa-420_weblogic_admin_wls となります。

- 別のコンポーネントから変数コンポーネントを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。  
変数セットのインポートの詳細については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- ターゲットホストを選択します。

WebLogic ソフトウェアをインストールした時に作成された仮想ホストをターゲットとします。20 ページの「WebLogic ソフトウェアをインストールする」の手順を参照してください。

---

注 - ターゲットホストは、com.sun.weblogic#InstallHS ホストセットのメンバーである必要があります。

---

- 「**Target Host Set**」チェックボックスをオフにします。
- プロビジョニングシステム内の既存の **WebLogic** ドメインを取得する場合は、「**markOnly**」オプションを選択します。
- 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## ▼ 異なるパスワードを使用して複数のドメインを作成する

同じユーザーとパスワードを使用して複数のドメインを作成できます。ただし、各ドメインに異なるパスワードを使用する場合は、各ドメインのインストール後に WebLogic ユーザーおよびパスワードセッション変数を更新する必要があります。

新しいドメインを作成するプランは、常にデフォルトのセッション変数名 `WL_DEFAULT_USER` および `WL_DEFAULT_PASSWORD` を使用します。

- 手順
- デフォルトの **WebLogic** セッション変数 `WL_DEFAULT_USER` および `WL_DEFAULT_PASSWORD` を使用して、新しいドメインと **AdminServer** をインストールします。  
27 ページの「WebLogic 8 ドメインと Administration Server を作成する」を参照してください。
  - ブラウザインタフェースの最上部の「**Session Variables**」をクリックして、「**Session Variables**」ページにアクセスします。
  - 新しくインストールされた **AdminServer** の新しいセッション変数を作成します。これらの新しいセッション変数の値は、AdminServer のインストールに使用したデフォルトの変数と同じ値です。

属性名	デフォルトのセッション変数名	新しいセッション変数名
adminUser	WL_DEFAULT_USER	WL_TEST_USR

属性名	デフォルトのセッション変数名	新しいセッション変数名
adminPassword	WL_DEFAULT_PASSWORD	WL_TEST_PWD

- 手順 1 で作成した **AdminServer** の「**host Details**」ページにアクセスし、「**Edit**」をクリックします。
- AdminServer** のホストタイプ属性を更新します。  
たとえば、値 `adminUser` を `:[session:WL_TEST_USR]` に置き換えます。
- 別のドメインをインストールする場合は「**Session Variables**」ページに戻り、デフォルトの **WebLogic** セッション変数を、インストールする次のドメインに使用する新しい値で更新します。

## ▼ WebLogic Managed Server を作成する

各ドメインで複数の **Managed Server** を実行し、アプリケーションをホストすることができます。**WebLogic Managed Server** は **Server** コンポーネントにより取得され、プロビジョニングシステム内に表示されます。本書全体を通じて、「**Server**」はプロビジョニングシステムコンポーネントを指しますが、「**Managed Server**」は **WebLogic 8** 環境で動作する **Managed Server** のインストール済みインスタンスを指します。

この手順で新しい **Managed Server** を作成したり、また「`markOnly`」オプションを選択することでプロビジョニングシステム内で既存の **Managed Server** を登録することもできます。

---

注 - クラスタを作成する場合、クラスタを作成する「前」に、そのクラスタに属する **Managed Server** を作成する必要があります。

---

始める前に **WebLogic Managed Server** を作成する前には、次の条件が満たされている必要があります。

- **Managed Server** を含むドメインが存在する必要がある。  
詳細は、27 ページの「[WebLogic 8 ドメインと Administration Server を作成する](#)」を参照してください。
- ドメインの **AdminServer** が実行中である必要がある。  
**AdminServer** を手動で起動するには、**AdminServer** の「**component Details**」ページから `startAdminServer` コンポーネントプロシージャを実行します。
- **WebLogic** ソフトウェアが、**Managed Server** のインストール先ホストにインストールされている必要がある。  
20 ページの「[WebLogic ソフトウェアをインストールする](#)」を参照してください。

- ユーザーは、コンポーネントを含むフォルダ上に Run Component Procedures アクセス権を有するユーザーグループに属する必要がある。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、Allow on Host Set アクセス権も必要です。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Application Server Management: Create**」リンクをクリックします。  
プランの「**Details**」ページが表示されます。
  3. 「**Run**」をクリックします。  
「**Run**」ページが表示されます。
  4. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する **ManagedServer** コンポーネントの変数設定を選択します。  
Server コンポーネントは、WebLogic 8 環境内の Managed Server インスタンスを表します。

- このコンポーネントに対して変数設定が指定されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
- メニューから設定が使用できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。  
「**Select Variable Settings From List**」ウィンドウが表示されます。
- 変数設定の新しいセットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。  
次のリストに、ManagedServer コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。作成する新しい変数セットの名前
adminServerHostName	必須。新しい Managed Server をホストする AdminServer 仮想ホストの名前。この値の形式は、 <i>remoteAgentName</i> <i>_weblogic_admin_domainName</i> です。  仮想ホストは「 <b>Hosts</b> 」ページにあります。仮想ホストのタイプは、 <i>com.sun.weblogic8#AdminServerHS</i> です。
targetName	必須。新しい Managed Server の名前。この名前は、Managed Server 仮想ホストを作成するため <i>targetRefName</i> 変数で使用されます。
startupScriptName	必須。Managed Server の起動スクリプトの名前。

起動スクリプトのデフォルト位置は  
/usr/local/boa/user\_projects/servers/  
domainName/ targetName です。この位置は、  
altServerRoot コンポーネント変数を設定  
することで変更できます。

serverPort SSL を使用しない場合は必須。この変数のデ  
フォルト値は 7010 です。このポートが使用で  
きない場合、Managed Server は起動せず、エ  
ラーメッセージが表示されます。ポートを解  
放したあと、Managed Server の「component  
Details」ページで Start コンポーネントプロ  
シージャを実行することで Managed Server  
を起動できます。

serverSslPort SSL を使用する場合は必須。この変数のデ  
フォルト値は 7020 です。このポートは使用可  
能である必要があります。使用できない場  
合、Managed Server は起動せず、エラ  
ーメッセージが表示されます。ポートを解放し  
たあと、Managed Server の「component  
Details」ページで Start コンポーネントプロ  
シージャを実行することで Managed Server  
を起動できます。

production 必須。この変数は、管理サーバーを稼働モー  
ドで実行するかどうかを決定します。稼働の  
デフォルト値は false です。この値は true  
または false に設定できます。

- 別のコンポーネントから変数コンポーネントを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。  
変数セットのインポートの詳細については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5. ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。  
Managed Server はターゲットとする Remote Agent に常駐します。

---

注 - ターゲットホストは、com.sun.weblogic#AdminServer ホストセットの  
メンバーである必要があります。

---

6. 「**Target Host Set**」チェックボックスをオフにします。
7. プロビジョニングシステム内で既存の **WebLogic Managed Server** を取得している場合は、「**markOnly**」オプションを選択します。

8. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## ▼ ライセンスコンポーネントを作成する

この手順では、ライセンスコンポーネントの作成方法を説明します。ライセンスコンポーネントを作成したあとは、33 ページの「[ライセンスコンポーネントをインストールする](#)」を参照してライセンスをインストールしてください。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**License Management: Create**」リンクをクリックします。  
コンポーネントの「**Edit**」ページが表示されます。
  3. 新しいライセンスコンポーネントの名前を入力します。
  4. (省略可能) コンポーネントのラベルと説明を入力します。
  5. ファイルシステム上に **BEA** ライセンスのコピーがあるホストを選択します。
  6. ホストのファイルシステムをナビゲートし、ライセンスファイルを選択します。
  7. 「**Check In Selected Item**」をクリックします。  
コンポーネントの「**Check In**」ページが表示されます。
  8. 編集アクセス権を持っているフォルダを選択します。
  9. 「**Continue to Check In**」をクリックします。

## ▼ ライセンスコンポーネントをインストールする

始める前に ライセンスコンポーネントをインストールするには、プロビジョニングシステム内にライセンスコンポーネントが存在する必要があります。33 ページの「[ライセンスコンポーネントを作成する](#)」を参照してください。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**License Management: View All**」リンクをクリックします。  
「**Components**」ページが表示されます。
  3. インストールするライセンスコンポーネントの行で「**Details**」をクリックします。

コンポーネントの「Details」ページが表示されます。

4. 「**Component Procedures**」テーブルで「**Default: Install**」プロシージャーを選択し、「**Run**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
5. ターゲットホストを選択します。  
AdminServer の仮想ホストをターゲットにします。

---

注 - ライセンスのインストール用にコンポーネント変数を変更する必要はありません。

---

6. (省略可能) 既存のライセンスを置き換える場合は、「**Plan Variables**」セクションで、「**Replace Rather Than Merge With Existing License**」オプションを選択します。

---

注 - 既存のライセンスを置き換えることを選択した場合、新しいライセンスを有効にするには、WebLogic ドメインを再起動する必要があります。

---

7. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## ▼ WebLogic クラスタを作成する

次のような理由により、クラスタを作成しなければならない場合があります。

- サーバーのフェイルオーバー機能を使用してアプリケーションの可用性を高める
- 複数のサーバーでアプリケーションをスケーリングすることでスループットを高める

クライアントに対してはクラスタは1つの WebLogic Managed Server インスタンスとして表示されます。クラスタを構成するサーバーインスタンスは、同一マシン上で実行したり、複数のマシンに配置することができます。クラスタ内の各クラスタメンバーは、同じバージョンの WebLogic を実行する必要があります。

この手順で新しいクラスタを作成したり、また「markOnly」オプションを選択することでプロビジョニングシステム内で既存のクラスタを登録することもできます。

始める前に WebLogic クラスタを作成する前には、クラスタ内で使用する WebLogic ドメイン、Administration Server および Managed Server を作成する必要があります。

WebLogic クラスタを作成するには、ユーザーは、コンポーネントが含まれるフォルダ上の Run Component Procedures アクセス権を有するユーザーグループに属する必要があります。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、Allow on Host Set アクセス権も必要です。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Cluster Management: Create**」リンクをクリックします。  
プランの「**Details**」ページが表示されます。
  3. 「**Run**」をクリックします。  
「**Run**」ページが表示されます。
  4. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する **Cluster** コンポーネントの変数設定を選択します。
    - このコンポーネントに対して変数設定が指定されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
    - メニューから設定が使用できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。  
「**Select Variable Settings From List**」ウィンドウが表示されます。
      - 変数設定の新しいセットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。  
次のリストに、ManagedServer コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。作成する新しい変数セットの名前
targetName	必須。新しいクラスタの名前。
clusterAddress	任意。この変数には、複数の IP アドレスに対応する DNS ホスト名、またはシングルアドレスホスト名や IP アドレスのコンマ区切りリストを使用できます。この変数には値は必要ありません。
multicastAddress	この変数は、クラスタメンバーが相互通信に使用できるアドレスを提供します。

    - 別のコンポーネントから変数コンポーネントを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。  
変数セットのインポートの詳細については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。
  5. ターゲットホストを選択します。

Administrative Server にはクラスタのみをインストールできるため、ターゲットホストは AdminServer 仮想ホストです。

6. 「**Target Host Set**」チェックボックスをオフにします。
7. プロビジョニングシステム内で既存の **WebLogic** クラスタを取得している場合は、「**markOnly**」オプションを選択します。
8. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## ▼ クラスタメンバーを作成する

クラスタノードは、クラスタに割り当てられる **Managed Server** です。アプリケーションの可用性とスケーラビリティを高めるために、クラスタメンバーを作成できます。

**Managed Server** がクラスタに参加すると、現在 **Managed Server** がターゲットであるアプリケーションは引き続きそのサーバーをターゲットとし、アプリケーションの配備状態は保存されます。クラスタメンバーを作成するプランは、自動的に **Managed Server** を停止し、それをクラスタに追加します。**Managed Server** が追加されたあと、プランは **Managed Server** を再起動します。

この手順で新しいクラスタメンバーを作成したり、また「**markOnly**」オプションを選択することでプロビジョニングシステム内で既存のクラスタメンバーを登録することもできます。

始める前に クラスタメンバーを作成する前には、次の条件が満たされている必要があります。

- クラスタメンバーに変換する **Managed Server** が存在する必要がある。  
詳細については、30 ページの「[WebLogic Managed Server を作成する](#)」を参照してください。
- ノードの追加先のクラスタが存在する必要がある。  
詳細については、34 ページの「[WebLogic クラスタを作成する](#)」を参照してください。

クラスタメンバーを作成するには、ユーザーは、コンポーネントが含まれるフォルダ上の **Run Component Procedures** アクセス権を有するユーザーグループに属する必要があります。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、**Allow on Host Set** アクセス権も必要です。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Cluster Member Management: Join**」リンクをクリックします。  
プランの「**Details**」ページが表示されます。

3. 「Run」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
4. クラスタに追加する **Managed Server** を選択します。
  - **Managed Server** の名前を入力するか、リストから選択して、ターゲットホストを選択します。

---

注 – 「Target Host Set」オプションは自動的に選択されます。1つの **Managed Server** を選択する場合は、「Target Host Set」チェックボックスをオフにします。

---

- メニューからターゲットホストセットを選択します。
5. プラン変数 **WebLogic Cluster Name** に正しいクラスタ名が含まれていることを確認します。
  6. サーバーが再起動されたことを確認する前にプロビジョニングシステムが待機する期間を指定するには、「**Seconds to Wait Before Failing Verify Step**」フィールドに秒数を入力します。
  7. プロビジョニングシステム内で既存の **WebLogic** クラスタメンバーを取得している場合は、「**markOnly**」オプションを選択します。
  8. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

---

## WebLogic ドメイン、サーバー、およびクラスタの管理

この節では、WebLogic サーバーをインストールしたあとに WebLogic サーバーおよびクラスタで一般に実行するタスクを説明します。

ドメインと Administrative Server

- 38 ページの「WebLogic ドメインと Administration Server を削除する」

クラスタ

- 40 ページの「WebLogic クラスタを削除する」
- 41 ページの「WebLogic クラスタメンバーを削除する」

## Managed Server

- 42 ページの「Managed Server を起動する」
- 43 ページの「Managed Server を停止する」
- 43 ページの「Managed Server を削除する」

# WebLogic ドメインと Administration Server の管理

この節では、WebLogic ドメインと Administration Server を管理する手順を説明します。

## ▼ WebLogic ドメインと Administration Server を削除する

プロビジョニングシステムを介して WebLogic ドメインを削除することで、自動的に次のタスクを実行します。

- WebLogic AdminServer コンポーネントおよび仮想ホストのアンインストール。  
このタスクは Administration Server を削除します。「markOnly」オプションを選択した場合、AdminServer 仮想ホストのみが削除されます。
- ドメイン内に属するすべての Managed Server コンポーネントおよび仮想ホストのアンインストール。  
この操作は、ユーザーが「markOnly」オプションを選択している場合を除き、WebLogic 環境内の Managed Server も削除します。
- ドメイン内に属するすべてのクラスタコンポーネントおよび仮想ホストのアンインストール。  
この操作は、ユーザーが「markOnly」オプションを選択している場合を除き、WebLogic 環境内のクラスタも削除します。
- アプリケーションコンポーネント、ライセンス構成、およびアプリケーションの削除。

---

注 – WebLogic 仮想ホストは、プラグインに属さないコンポーネントを含むことはできません。WebLogic ドメインを正しく削除するには、ドメインアンインストールプランを実行する前に、プラグインに属さないすべてのコンポーネントを削除する必要があります。

---

始める前に WebLogic ドメインを削除するには、ユーザーは、コンポーネントが含まれるフォルダ上の Run Component Procedures アクセス権を有するユーザーグループに属する必要があります。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、Allow on Host Set アクセス権も必要です。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Domain Management: Remove**」リンクをクリックします。  
プランの「**Details**」ページが表示されます。
  3. 「**Run**」をクリックします。  
プランの「**Run**」ページが表示されます。
  4. ターゲットホストを選択します。  
WebLogic ソフトウェアをインストールした時に作成された仮想ホストをターゲットとします。20 ページの「[WebLogic ソフトウェアをインストールする](#)」の手順を参照してください。

---

注 - ターゲットホストは、com.sun.weblogic#InstallHS ホストセットのメンバーである必要があります。

---

5. 「**WebLogic Domain Name**」フィールドに **WebLogic** ドメインの名前を入力します。
6. プロビジョニングシステムから **WebLogic** ドメイン、**Administration Server**、クラスタ、および **Managed Server** を削除し、**WebLogic** 環境でドメインを動作させる場合は、「**markOnly**」オプションを選択します。
7. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## WebLogic クラスタの管理

次の節では、クラスタを起動、停止、および削除する方法を説明します。

### ▼ クラスタを起動または停止する

クラスタを起動または停止すると、クラスタ内のすべてのクラスタメンバーを起動または停止することになります。

---

注 - この機能を使用するには、すべてのクラスタメンバーは同じ状態である必要があります。

---

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。

2. 「**Cluster Management: Start or Stop**」リンクをクリックします。  
「component Details」ページが表示されます。
3. 「**Component Procedures**」リストで、**Start** または **Stop** プロシージャーを含む行を選択し、「**Run**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
4. 起動または停止するクラスタを選択します。  
クラスタ名は installPath の一部です。
5. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
6. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## ▼ WebLogic クラスタを削除する

クラスタを削除すると、そのクラスタに関連付けられたすべてのクラスタメンバーも削除されます。

Managed Server の役割に戻るクラスタメンバーの動作の詳細については、[41 ページ](#)の「[WebLogic クラスタメンバーを削除する](#)」を参照してください。

---

注 – Managed Server をクラスタから削除すると、Managed Server は停止されます。引き続き Managed Server を使用する場合は、Managed Server を再起動する必要があります。[42 ページ](#)の「[Managed Server を起動する](#)」を参照してください。

---

始める前に クラスタを削除するには、ユーザーは、コンポーネントが含まれるフォルダ上の Run Component Procedures アクセス権を有するユーザーグループに属する必要があります。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、Allow on Host Set アクセス権も必要です。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Cluster Management: Remove**」リンクをクリックします。  
プランの「Details」ページが表示されます。
  3. 「**Run**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
  4. 「**Target Host**」フィールドで、クラスタをホストするドメインを選択します。

5. 「**Target Host Set**」チェックボックスをオフにします。
6. 「**Plan Variables**」セクションの「**WebLogic Cluster Name**」フィールドで、**WebLogic** インタフェースに表示されるクラスタ名を入力します。
7. プロビジョニングシステムから **WebLogic** クラスタを削除するが、そのクラスタを **WebLogic** 環境で動作させ続ける場合は、「**markOnly**」オプションを選択します。
8. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## ▼ WebLogic クラスタメンバーを削除する

クラスタメンバーを削除すると、クラスタメンバーコンポーネントが **Managed Server** から削除され、クラスタメンバーとして動作していた **Managed Server** が元の状態に戻ります。クラスタをターゲットとしていたアプリケーション、およびクラスタメンバーは、再起動後、**Managed Server** によりホストされなくなります。**Managed Server** を直接ターゲットとしていたアプリケーションは、引き続き **Managed Server** をターゲットとします。

クラスタから **Managed Server** が削除されると、**Managed Server** は停止状態のままになります。引き続き **Managed Server** を使用する場合は、**Managed Server** を再起動する必要があります。42 ページの「**Managed Server を起動する**」を参照してください。

始める前に クラスタメンバーを削除するには、ユーザーは、コンポーネントが含まれるフォルダ上の **Run Component Procedures** アクセス権を有するユーザーグループに属する必要があります。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、**Allow on Host Set** アクセス権も必要です。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Clusters Member Management: Leave**」リンクをクリックします。  
プランの「**Details**」ページが表示されます。
  3. 「**Run**」をクリックします。  
プランの「**Run**」ページが表示されます。
  4. 削除する **Managed Server** を選択します。
  5. 「**Target Host Set**」チェックボックスをオフにします。
  6. プロビジョニングシステムから **WebLogic** クラスタメンバーを削除するが、**WebLogic** 環境でクラスタメンバーを動作させ続ける場合は、「**markOnly**」オプションを選択します。

7. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## WebLogic Managed Server の管理

### ▼ Managed Server を起動する

始める前に Managed Server を起動するには、ユーザーは、コンポーネントが含まれるフォルダ上の Run Component Procedures アクセス権を有するユーザーグループに属する必要があります。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、Allow on Host Set アクセス権も必要です。

- 手順 1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
2. 「**Application Server Management: Start**」リンクをクリックします。  
「component Details」ページが表示されます。
3. 「**Component Procedures**」リストで、**Start** プロシージャを含む行を選択し、「**Run**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
4. 起動する必要がある **Managed Server** を選択します。  
Managed Server は *host (install-path)* の形式に従います。*host* は物理ホストの名前を表し、*install-path* は Managed Server の名前を表します。Managed Server 名は `server_wls_managedServerName` と表示されます。たとえば、`server_wls_Server-One` となります。
5. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
6. プラン変数を設定します。
  - a. (省略可能) **Java** に渡される標準メモリー引数をオーバーライドするには、「**vmArgs**」フィールドに名前を入力します。  
「vmArgs」フィールドに使用される形式は、`-virtualMachineName` です。たとえば `-Xms32m -Xmx200m` のようになります。
  - b. サーバーが起動したことを確認する前にプロビジョニングシステムが待機する期間を指定するには、「**Seconds to Wait Before Failing Verify Step**」フィールドに秒数を入力します。
7. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## ▼ Managed Server を停止する

始める前に Managed Server を停止するには、ユーザーは、コンポーネントが含まれるフォルダ上の Run Component Procedures アクセス権を有するユーザーグループに属する必要があります。また、コンポーネントの配備先のホストセットに関しては、Allow on Host Set アクセス権も必要です。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Application Server Management: Stop**」リンクをクリックします。  
「component Details」ページが表示されます。
  3. 「**Component Procedures**」リストで、**Stop** プロシージャを含む行を選択し、「**Run**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
  4. 起動する必要がある **Managed Server** を選択します。  
Managed Server は *host (install path)* の形式に従います。*host* は物理ホストの名前を表し、*install path* は Managed Server の名前を表します。Managed Server 名は *server\_domainName\_managedServerName* として表示されます。たとえば、*server\_wls\_Server-One* のようになります。
  5. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
  6. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

## ▼ Managed Server を削除する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Application Server Management: Remove**」リンクをクリックします。  
プランの「Details」ページが表示されます。
  3. 「**Run**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
  4. 削除する **Managed Server** を選択します。
  5. 必要に応じてプラン変数を変更します。
    - a. **WebLogic Managed Server** の名前を入力します。

- b. **Managed Server** が登録されている **WebLogic** ドメインの名前を入力します。
  - c. プロビジョニングシステムから **WebLogic Managed Server** を削除するが、**WebLogic** 環境で **Managed Server** を動作させ続ける場合は、「**markOnly**」オプションを選択します。
6. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

---

## WebLogic アプリケーションの取得と編集

「WebLogic Common Tasks」ページでは、WebLogic Enterprise、EJB テクノロジー、および Web アプリケーションの取得、構成、および配備を行うことができます。

次の節で説明する、複数の特別なタスクを実行できます。

- 44 ページの「WebLogic エンタープライズアプリケーションまたは EAR ファイルを取得する」
- 45 ページの「WebLogic Web アプリケーションまたは WAR ファイルを取得する」
- 46 ページの「WebLogic JAR ファイルを取得する」

---

注 - N1 Grid Service Provisioning System の外部では、WebLogic アプリケーションの配備や管理を行わないでください。プロビジョニングソフトウェアを使用する場合、プロビジョニングソフトウェアのみを使用して WebLogic アプリケーションを管理する必要があります。

---

### ▼ WebLogic エンタープライズアプリケーションまたは EAR ファイルを取得する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**Enterprise Applications (EAR): Create**」リンクをクリックします。
  3. このコンポーネントのラベルを入力します。

4. このコンポーネントの説明を入力します。
5. アプリケーションをどのようにインポートするかを選択します。  
詳細については、48 ページの「エンタープライズアプリケーションのブラウズ」を参照してください。
  - **AdminServer** からインポートする場合は、「**WebLogic Admin Server**」を選択し、**EAR** ファイルのインポート元である **WebLogic Admin Server** を選択します。
  - ファイルシステムからインポートする場合は、「**File System**」を選択し、**EAR** ファイルのインポート元であるホストを選択します。
6. 階層をナビゲートして、取得するエンタープライズアプリケーションを検索します。
7. 「**Check-in Selected Item**」をクリックします。
8. 「**check-in**」ページの情報を確認して、「**Continue to Check-in**」をクリックします。

## ▼ WebLogic Web アプリケーションまたは WAR ファイルを取得する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**WebLogic Common Tasks**」ページの「**Web Applications (WAR)**」セクションで「**Create**」をクリックします。
  3. このコンポーネントのラベルを入力します。
  4. このコンポーネントの説明を入力します。
  5. アプリケーションをどのようにインポートするかを選択します。  
詳細については、50 ページの「**Web アプリケーションのブラウズ**」を参照してください。
    - **AdminServer** からインポートする場合は、「**WebLogic Admin Server**」を選択し、**WAR** ファイルのインポート元である **WebLogic Admin Server** を選択します。
    - ファイルシステムからインポートする場合は、「**File System**」を選択し、**WAR** ファイルのインポート元であるホストを選択します。
  6. 階層をナビゲートして、取得する **Web** アプリケーションを検索します。

7. 「**Check-in Selected Item**」をクリックします。
8. 「**check-in**」ページの情報を確認して、「**Continue to Check-in**」をクリックします。

## ▼ WebLogic JAR ファイルを取得する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebLogic**」をクリックします。
  2. 「**WebLogic Common Tasks**」ページの「**Java Archives Containing EJBs (JAR)**」セクションで「**Create**」をクリックします。
  3. このコンポーネントのラベルを入力します。
  4. このコンポーネントの説明を入力します。
  5. **JAR** ファイルをどのようにインポートするかを選択します。  
詳細については、51 ページの「**JAR または EJB ファイルのブラウズ**」を参照してください。
    - **AdminServer** からインポートする場合は、「**WebLogic Admin Server**」を選択し、**JAR** ファイルのインポート元である **WebLogic Admin Server** を選択します。
    - ファイルシステムからインポートする場合は、「**File System**」を選択し、**JAR** ファイルのインポート元であるホストを選択します。
  6. 階層をナビゲートして、取得する **JAR** ファイルを検索します。
  7. 「**Check-in Selected Item**」をクリックします。
  8. 「**check-in**」ページの情報を確認して、「**Continue to Check-in**」をクリックします。

---

## コンポーネントタイプを使用した WebLogic アプリケーションの配備

WebLogic 8 プラグインには WebLogic に固有の複数のコンポーネントタイプが含まれています。これらのコンポーネントタイプを使用すると、最も一般的な WebLogic アプリケーションコンポーネントの多くを素早くモデル化し、特定のリソースとインストール、アンインストール、エクスポート、およびスナップショット動作を自動的に関連付けることができます。サーバーやクラスタを作成、管理する際には、コンポーネントタイプの多くがソフトウェアにより使用されます。その結果、通常は少数のコンポーネントタイプのみで作業を行います。

- 48 ページの「エンタープライズアプリケーション (EAR) コンポーネントタイプ」
- 49 ページの「Web アプリケーション (WAR) コンポーネントタイプ」
- 51 ページの「EJB コンポーネントタイプを含む Java アーカイブファイル」

ただし、アプリケーションのニーズに応じて、アプリケーションコンポーネントを配備する前に WebLogic サービスを構成しなければならない場合があります。サービスを構成するには、次の節で説明されているコンポーネントタイプに依存しなければならない場合があります。

- 52 ページの「データソースおよびトランザクションデータソースのコンポーネントタイプ」
- 52 ページの「データソースおよびトランザクションデータソースのコンポーネントタイプ」
- 53 ページの「接続プールのコンポーネントタイプ」
- 54 ページの「マルチプールコンポーネントタイプ」
- 55 ページの「スレッドプールコンポーネントタイプ」
- 56 ページの「トランザクションサービスコンポーネントタイプ」
- 56 ページの「JMS Server コンポーネントタイプ」
- 57 ページの「メールセッションコンポーネントタイプ」

これらの構成コンポーネントタイプが必要であるのは、アプリケーションで必要とされる場合のみです。たとえば、Web アプリケーションがデータベースを使用して情報の取得と格納を行う場合、接続プールとデータソースあるいはトランザクションデータソースを構成する必要があります。

これらの構成コンポーネントタイプを使用するには、実行するタスクを選択し、関連付けられたコンポーネントプロシージャを実行します。ファイルシステムのほかの場所に存在する既存のコンポーネントに基づいて新しいコンポーネントを作成およびチェックインする必要がある場合は、「Create」をクリックします。新しいコンポーネントをチェックインしたあと、適切なコンポーネントプロシージャを実行し、アプリケーションのニーズに従って WebLogic 環境を構成します。

通常は、アプリケーションを配備する前にこれらの構成コンポーネントタイプの構成と配備を行います。ただし、構成が完了したあとでアプリケーションを再起動することによってアプリケーションコンポーネントが配備されたあとに、WebLogic 環境を構成できます。アプリケーションを再起動するにはアプリケーションを再配備します。

これらの構成オブジェクトの構成の詳細については、BEA's Administration Console Online Helpを参照してください。

## エンタープライズアプリケーション (EAR) コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、エンタープライズアプリケーションをモデル化します。このコンポーネントは、エンタープライズアプリケーションアーカイブ (EAR) またはパッケージとして EAR の拡張版を含むことができます。

### エンタープライズアプリケーションのブラウズ

次のブラウザのいずれかを使用して、このコンポーネントタイプのエンタープライズアプリケーションを選択できます。

- インストールされたアプリケーションのいずれかとその関連設定を選択できる WebLogic Administration Server ブラウザ。Administration Server ブラウザは、Administration Server 上のエンタープライズアプリケーションのアルファベット順リストを提供します。あるコンポーネント用に 1 つのエンタープライズアプリケーションを選択できます。
- EAR ファイルを選択して、設定が含まれないコンポーネントを作成できる、ファイルシステムブラウザ。ファイルシステムブラウザは、ユーザーが選択できるファイルとディレクトリのリストを提供します。これらのファイルまたはタイプ \*.ear のみをブラウザに表示させることを選択できます。

### エンタープライズアプリケーションのインストール

エンタープライズアプリケーションコンポーネントをインストールするには、ターゲットホストとして WebLogic Managed Server またはクラスタを使用する必要があります。インストールプロセスにより、次の 3 つの主要タスクが実行されます。

1. ターゲットへの EAR ファイルのインストール。
2. WebLogic Administration Server への EAR の登録。
3. ドメインのブラウズで以前に取得されたプロパティの適用。

アプリケーションの「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャを実行することにより、エンタープライズアプリケーションをインストールできます。

## エンタープライズアプリケーションのアンインストール

エンタープライズアプリケーションコンポーネントをアンインストールすると、エンタープライズアプリケーションは仮想ホストをターゲットとはしなくなります。ほかの場所でもエンタープライズアプリケーションがターゲットとされていない場合、Administration Server から登録コンポーネントが削除されます。

アプリケーションの「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャを実行することにより、エンタープライズアプリケーションをアンインストールできます。

## エラー状態

表 4-2 WebLogic エンタープライズアプリケーションのエラー状態

アクション	条件	結果
インストール	トポロジが正しく構成されていない (ターゲットホストが正しいドメインホストをポイントしていない)	ターゲット化が失敗する
インストール	ターゲットホストが有効な WebLogic ターゲットではない	インストールが禁止される
ブラウズ/インストール/アンインストール	資格が適切に構成されていない	操作が失敗する
ブラウズ	ドメインホストでパスが正しく構成されていない	ブラウズが失敗する

## Web アプリケーション (WAR) コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントには Web アプリケーションが含まれます。コンポーネントには、関連する設定を持つ Web アプリケーション、または設定を持たない Web アプリケーションのいずれかが含まれます。

## Web アプリケーションのブラウズ

次のブラウザのいずれかを使用して、このコンポーネントタイプの Web アプリケーションを選択できます。

- インストールされたアプリケーションのいずれかとその関連設定を選択できる WebLogic Administration Server ブラウザ。Administration Server ブラウザは、Administration Server 上の Web アプリケーションのアルファベット順リストを提供します。1つのコンポーネントに対して1つの Web アプリケーションを選択できます。
- WAR ファイルを選択して、設定が含まれないコンポーネントを作成できる、ファイルシステムブラウザ。ファイルシステムブラウザは、ユーザーが選択できるファイルとディレクトリのリストを提供します。これらのファイルまたはタイプ \*.war のみをブラウザに表示させることを選択できます。

## Web アプリケーションのインストール

Web アプリケーションコンポーネントをインストールするには、ターゲットホストとして WebLogic Managed Server またはクラスタを使用する必要があります。インストールプロセスでは、そのターゲットにコンポーネントがインストールされ、ターゲットの Administration Server には包含される登録コンポーネントがインストールされます。

アプリケーションの「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャを実行することにより、Web アプリケーションをインストールできます。

## Web アプリケーションのアンインストール

Web アプリケーションコンポーネントをアンインストールすると、Web アプリケーションは仮想ホストをターゲットとはしなくなります。ほかの場所でも Web アプリケーションがターゲットとされていない場合、Administration Server から登録コンポーネントが削除されます。

アプリケーションの「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャを実行することにより、Web アプリケーションをアンインストールできます。

## エラー状態

表 4-3 WebLogic Web アプリケーションのエラー状態

アクション	条件	結果
インストール	トポロジが正しく構成されていない (ターゲットホストが正しいドメインホストをポイントしていない)	ターゲット化が失敗する。
インストール	ターゲットホストが有効な WebLogic ターゲットではない。	インストールが禁止される。
ブラウズ/インストール/アンインストール	資格が適切に構成されていない。	操作が失敗する。
ブラウズ	ドメインホストでパスが正しく構成されていない。	ブラウズが失敗する。

## EJB コンポーネントタイプを含む Java アーカイブファイル

### JAR または EJB ファイルのブラウズ

次のブラウザのいずれかを使用して、このコンポーネントタイプの JAR または EJB ファイルを選択できます。

- インストールされたアプリケーションのいずれかとその関連設定を選択できる WebLogic Administration Server ブラウザ。Administration Server ブラウザは、Administration Server 上のアプリケーションのアルファベット順リストを提供します。1つのコンポーネントに対して1つの EJB を選択できます。
- JAR ファイルを選択して、設定が含まれないコンポーネントを作成できる、ファイルシステムブラウザ。ファイルシステムブラウザは、ユーザーが選択できるファイルとディレクトリのリストを提供します。これらのファイルまたはタイプ \*.jar のみをブラウザに表示させることを選択できます。

### JAR または EJB ファイルのインストール

このタイプのコンポーネントをインストールすると、インストールパスに基づいてファイルまたはディレクトリがファイルシステムにコピーされます。コピーが完了すれば、ファイルまたはディレクトリは WebLogic Administration Server に登録されます。

アプリケーションの「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャを実行することにより、JAR または EJB ファイルをインストールできます。

## JAR または EJB ファイルのアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、マスターサーバーからファイルまたはディレクトリが削除されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャを実行することにより、JAR または EJB ファイルをアンインストールできます。

## エラー状態

表 4-4 WebLogic EJB コンテナのエラー状態

アクション	条件	結果
アンインストール	依存する WebLogic EJB が依然としてインストールされている。	依存関係を示し、アンインストールが失敗する。

## データソースおよびトランザクションデータソースのコンポーネントタイプ

### データソースまたはトランザクションデータソースのブラウザ

WebLogic Administration Server ブラウザを使用すると、このブラウザからデータソースまたはトランザクションデータソースおよびその関連設定を選択できます。Administration Server ブラウザは、Administration Server 上のアプリケーションのアルファベット順リストを提供します。

WebLogic プラグインにはデフォルトのデータソースおよびトランザクションデータソースも含まれているため、ブラウザする必要がありません。「Common Tasks」ページから「View All」を選択することにより、/com/sun/webLogic8 フォルダでデフォルトのコンポーネントを検索できます。デフォルトのコンポーネントは、Default: Install コンポーネントプロシージャを使用することで、「component Details」ページからインストールできます。デフォルトのコンポーネントの名前を次に示します。

- WLDataSourceConfig - データソースコンポーネント
- WLTxDataSourceConfig - トランザクションデータソースコンポーネント

## データソースまたはトランザクションデータソースのインストール

このタイプのコンポーネントをインストールすると、インストールパスに基づいてファイルまたはディレクトリがファイルシステムにコピーされます。コピーが完了すれば、ファイルまたはディレクトリは WebLogic Administration Server に登録されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャを実行することで、データソースまたはトランザクションデータソースをインストールできます。

データソースまたはトランザクションデータソースをインストールする前には、次の変数を編集する必要があります。

- データソースまたはトランザクションデータソースの名前
- Java Naming and Directory Interface™ (JNDI™) の名前
- プール名

## データソースまたはトランザクションデータソースのアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、マスターサーバーからファイルまたはディレクトリが削除されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャを実行することで、データソースまたはトランザクションデータソースをアンインストールできます。

## 接続プールのコンポーネントタイプ

### 接続プールのブラウズ

WebLogic Administration Server ブラウザを使用すると、このブラウザから接続プールおよびその関連設定を選択できます。Administration Server ブラウザは、Administration Server 上のアプリケーションのアルファベット順リストを提供します。

WebLogic プラグインには、WLJDBCConnectionPoolConfig と呼ばれるデフォルトの接続プールコンポーネントも含まれています。このデフォルトコンポーネントにより、ブラウズの必要がなくなります。「Common Tasks」ページから「View All」を選択することにより、/com/sun/webLogic8 フォルダでデフォルトのコンポーネントを検索できます。デフォルトのコンポーネントは、Default: Install コンポーネントプロシージャを使用することで、「component Details」ページからインストールできます。

## 接続プールのインストール

このタイプのコンポーネントをインストールすると、インストールパスに基づいてファイルまたはディレクトリがファイルシステムにコピーされます。コピーが完了すれば、ファイルまたはディレクトリは WebLogic Administration Server に登録されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャを実行することにより、接続プールをインストールできます。

接続プールをインストールする前には、次の変数を編集する必要があります。

- プール名
- URL
- ドライバ
- データベース名
- ユーザー
- パスワード

## 接続プールのアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、Master Server からファイルまたはディレクトリが削除されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャを実行することにより、接続プールをアンインストールできます。

## マルチプールコンポーネントタイプ

### マルチプールのブラウズ

WebLogic Administration Server ブラウザを使用すると、このブラウザからマルチプールおよびその関連設定を選択できます。Administration Server ブラウザは、Administration Server 上のアプリケーションのアルファベット順リストを提供します。

WebLogic プラグインには、WLJDBCMultiPoolConfig と呼ばれるデフォルトの接続プールコンポーネントも含まれています。このデフォルトコンポーネントにより、ブラウズの必要がなくなります。「Common Tasks」ページから「View All」を選択することにより、/com/sun/webLogic8 フォルダでデフォルトのコンポーネントを検索できます。デフォルトのコンポーネントは、Default: Install コンポーネントプロシージャを使用することで、「component Details」ページからインストールできます。

## マルチプールのインストール

このタイプのコンポーネントをインストールすると、インストールパスに基づいてファイルまたはディレクトリがファイルシステムにコピーされます。コピーが完了すれば、ファイルまたはディレクトリは WebLogic Administration Server に登録されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャを実行することにより、マルチプールをインストールできます。

マルチプールをインストールする前には、次の変数を編集する必要があります。

- マルチプール名
- アルゴリズムタイプ
- プールリスト-パイプで区切られた (|) 接続プールのリスト

## マルチプールのアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、Master Server からファイルまたはディレクトリが削除されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャを実行することにより、マルチプールをアンインストールできます。

## スレッドプールコンポーネントタイプ

### スレッドプールの構成

このタイプのコンポーネントをインストールすると、インストールパスに基づいてファイルまたはディレクトリがファイルシステムにコピーされます。コピーが完了すれば、ファイルまたはディレクトリは WebLogic Administration Server に登録されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャを実行することにより、スレッドプールをインストールできます。

プランのパラメータ変数設定を編集できます。

### スレッドプールのアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、Master Server からファイルまたはディレクトリが削除されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャを実行することにより、スレッドプールをアンインストールできます。

## トランザクションサービスコンポーネントタイプ

### トランザクションサービスの構成

このタイプのコンポーネントをインストールすると、インストールパスに基づいてファイルまたはディレクトリがファイルシステムにコピーされます。コピーが完了すれば、ファイルまたはディレクトリは WebLogic Administration Server に登録されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャを実行することにより、トランザクションサービスをインストールできます。

プランのパラメータ変数設定を編集できます。

### トランザクションサービスのアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、Master Server からファイルまたはディレクトリが削除されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャを実行することにより、トランザクションサービスをアンインストールできます。

## JMS Server コンポーネントタイプ

### JMS Server のブラウズ

WebLogic Administration Server ブラウザを使用すると、このブラウザから JMS Server およびその関連設定を選択できます。Administration Server ブラウザは、Administration Server 上のアプリケーションのアルファベット順リストを提供します。

WebLogic プラグインには、WLJMSServerConfig と呼ばれるデフォルトの接続プールコンポーネントも含まれています。このデフォルトコンポーネントにより、ブラウズの必要がなくなります。「Common Tasks」ページから「View All」を選択することにより、/com/sun/webLogic8 フォルダでデフォルトのコンポーネントを検索できます。デフォルトのコンポーネントは、Default: Install コンポーネントプロシージャを使用することで、「component Details」ページからインストールできます。

### JMS Server のインストール

このタイプのコンポーネントをインストールすると、インストールパスに基づいてファイルまたはディレクトリがファイルシステムにコピーされます。コピーが完了すれば、ファイルまたはディレクトリは WebLogic Administration Server に登録されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャーを実行することにより、JMS Server をインストールできます。

JMS Server をインストールする前には、JMS Server の名前変数を編集する必要があります。

## JMS Server のアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、Master Server からファイルまたはディレクトリが削除されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャーを実行することにより、JMS Server をアンインストールできます。

## メールセッションコンポーネントタイプ

### メールセッションのブラウズ

WebLogic Administration Server ブラウザを使用すると、このブラウザからメールセッションおよびその関連設定を選択できます。Administration Server ブラウザは、Administration Server 上のアプリケーションのアルファベット順リストを提供します。

### メールセッションのインストール

このタイプのコンポーネントをインストールすると、インストールパスに基づいてファイルまたはディレクトリがファイルシステムにコピーされます。コピーが完了すれば、ファイルまたはディレクトリは WebLogic Administration Server に登録されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Install コンポーネントプロシージャーを実行することにより、メールセッションをインストールできます。

メールセッションをインストールする前には、次の変数を編集する必要があります。

- メールセッション名
- JNDI 名

### メールセッションのアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、Master Server からファイルまたはディレクトリが削除されます。

「component Details」ページにナビゲートし、Uninstall コンポーネントプロシージャを実行することにより、メールセッションをアンインストールできます。

---

## CLI を使用した WebLogic の作業

プロビジョニングシステムを介して WebLogic で作業を行う場合、N1 Grid Service Provisioning System コマンド行と WebLogic コマンド行の2つのコマンド行を使用できます。

### N1 Grid Service Provisioning System コマンド行インタフェースの使用法

デフォルトでは、プロビジョニングシステムのコマンド行インタフェースは次のディレクトリにあります。

```
/opt/SUNWn1sps/N1_Grid_Service_Provisioning_system_5.0/cli/bin/cr_cli
```

BEA WebLogic 8 プラグインオブジェクトは、/com/sun/weblogic8 フォルダにあります。

ほかのカスタムコンポーネントやプランとほぼ同じように、プラグインコンポーネントやプランを操作できます。ただし、コンポーネントまたはプランに変更を加える場合、コンポーネントまたはプランを新しいフォルダに保存し、そのフォルダで変更を行う必要があります。プロビジョニングシステムのコマンド行インタフェースの使用法の詳細については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル』の第1章「コマンド行インタフェースの使用」を参照してください。

### WebLogic コマンド行インタフェースの使用法

WebLogic コマンド行は、「WebLogic 8 Common Task」ページからアクセスできます。WebLogic 8 コマンド行インタフェースの詳細については、BEA の Web サイトの WebLogic Server Command Reference を参照してください。

#### ▼ N1 Grid Service Provisioning System を介して WebLogic コマンド行インタフェースを使用する

任意の Administration Server または Managed Server で WebLogic コマンドを実行できます。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. **Administration Server** と **Managed Server** のどちらでコマンドを実行するかを選択します。
    - **Administration Server** でコマンドを実行する場合は、「**Domain Management: Start**」をクリックします。
    - **Managed Server** でコマンドを実行する場合は、「**Application Server Management: Start**」をクリックします。  
「component Details」ページが表示されます。
  3. 「**Run-cli**」コンポーネントプロシージャを選択し、「**Run**」をクリックします。  
プランの「Run」ページが表示されます。
  4. **CLI** を実行する **AdminServer** 仮想ホストまたは **Managed Server** 仮想ホストを選択し、「**Run Selected Installations**」をクリックします。
  5. プラン変数のフィールドに必要な情報を入力します。  
多くのプラン変数には情報が必要ないため、空白のままにしておくことができます。次の表で、オプション変数を説明します。

#### コマンドの SSL 引数

サーバーへの接続に SSL を使用しない場合、この変数は無視しても構いません。

#### コマンドのターゲットを表示または修正する適切なアクセス権が必要なユーザーの名前

これはユーザー名の変数です。ユーザー名とパスワードの変数は、ユーザー構成ファイルおよびキーファイル変数と相互に排他的です。ユーザー名およびパスワードと、ユーザー構成ファイルおよびキーファイル位置のどちらかを指定します。

#### ユーザー名と関連付けられたパスワード

これらはパスワード変数です。ユーザー名とパスワードの変数は、ユーザー構成ファイルおよびキーファイル変数と相互に排他的です。ユーザー名およびパスワードと、ユーザー構成ファイルおよびキーファイル位置のどちらかを指定します。

#### 暗号化されたユーザー名とパスワードが含まれる、ユーザー構成ファイルの名前と位置

これはユーザー構成ファイル変数です。ユーザー名とパスワードの変数は、ユーザー構成ファイルおよびキーファイル変数と相互に排他的です。ユーザー名およびパスワードと、ユーザー構成ファイルおよびキーファイル位置のどちらかを指定します。

#### キーファイルの名前と位置

これはキーファイル変数です。ユーザー名とパスワードの変数は、ユーザー構成ファイルおよびキーファイル変数と相互に排他的です。ユーザー名およびパ

スワードと、ユーザー構成ファイルおよびキーファイル位置のどちらかを指定します。

6. 「Run Plan (includes Preflight)」をクリックします。

#### 例 4-1 コマンド行インタフェースの使用法

次の例では WebLogic FORCESHUTDOWN コマンドを使用して、各 Run-CLI プラン変数の入力を説明します。

---

実行する Weblogic CLI (weblogic.Admin または weblogic.Deployer):	weblogic.Admin
コマンドの SSL 引数:	
コマンドを実行するサーバーインスタンスの待機アドレス:	sun03 「これは AdminServer の名前です。」
コマンドを実行するサーバーインスタンスの待機ポート:	7001
コマンドのターゲットを表示または修正する適切なアクセス権が必要なユーザーの名前:	admin
ユーザー名と関連付けられたパスワード:	xxxxx
暗号化されたユーザー名とパスワードが含まれる、ユーザー構成ファイルの名前と位置:	
キーファイルの名前と位置:	
実行するコマンドの名前:	FORCESHUTDOWN
コマンドの引数:	Server-one

---

## N1 Grid Service Provisioning System 内での WebLogic Server Scripting Tool の使用法

プロビジョニングシステムのブラウザインタフェースからは WebLogic Server Scripting Tool (WLST) を使用できません。WLST を使用した管理タスクと構成変更の実行方法の詳細については、BEA の WebLogic Server の Using the WebLogic Server Scripting Tool (<http://dev.bea.com/code/library/code/wlst.jsp>) ドキュメントを参照してください。

### ▼ WebLogic スクリプトコンポーネントを作成する

まず WebLogic スクリプトコンポーネントを作成してから、それをインストールする必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Command Line Interface: Create**」リンクをクリックします。  
コンポーネントの「**Edit**」ページが表示されます。
  3. 新しい **WebLogic** スクリプトコンポーネントの名前を入力します。
  4. (省略可能) コンポーネントのラベルと説明を入力します。
  5. ファイルシステム上の **WebLogic** スクリプトファイルのコピーがあるホストを選択します。
  6. ホストのファイルシステムをナビゲートし、ファイルを選択します。
  7. 「**Check In Selected Item**」をクリックします。  
コンポーネントの「**Check In**」ページが表示されます。
  8. 編集アクセス権を持っているフォルダを選択します。
  9. 「**Continue to Check In**」をクリックします。

## ▼ WebLogic スクリプトコンポーネントをインストールする

始める前に WebLogic スクリプトコンポーネントをインストールするには、プロビジョニングシステム内にスクリプトコンポーネントが存在する必要があります。60 ページの「[WebLogic スクリプトコンポーネントを作成する](#)」を参照してください。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**WebLogic 8**」をクリックします。
  2. 「**Command Line Interface: View All**」リンクをクリックします。  
「**Components**」ページが表示されます。
  3. インストールする **WLScript** コンポーネントの行で「**Details**」をクリックします。  
コンポーネントの「**Details**」ページが表示されます。
  4. 「**Component Procedures**」テーブルで「**Default: Install**」プロシージャを選択し、「**Run**」をクリックします。  
プランの「**Run**」ページが表示されます。
  5. ターゲットホストを選択します。  
AdminServer の仮想ホストをターゲットにします。

---

注 - ライセンスのインストール用にコンポーネント変数を変更する必要はありません。

---

6. (省略可能) ソフトウェアをインストールした **WebLogic** ユーザーの名前を「**RunAs**」フィールドに入力します。  
このユーザーは、ソフトウェアインストールプランで使用される `webLogicUser` 変数によって表されます。
7. 「**Run Plan (includes Preflight)**」をクリックします。

---

## プランの使用法

WebLogic 8 プラグインは、Administration Server、Managed Server、およびクラスタのインストールと削除に関連する数多くのタスクの実行を、プランに依存しています。

BEA WebLogic 8 プラグインのプランは `/com/sun/weblogic8` フォルダにあり、「Common Tasks」ページからリンクされています。

---

## 障害追跡

プロビジョニングソフトウェアを介して WebLogic を管理する際に問題が発生した場合、通常は画面にメッセージが表示され、問題が存在することが通知されます。

```
Problems encountered during plan run or preflight
The plan (or preflight) "/com/sun/weblogic8/InstallAdminServerPlan"
finished with 1 failed host(s). (017034)
Unable to find session variable "WL_DEFAULT_PASSWORD" (Unresolved
session variable WL_DEFAULT_PASSWORD. This session variable was
automatically created when the system was unable to find it.).
Add this session variable and try the operation again. (040111)
```

この例のメッセージは理解しやすいものですが、すべてのメッセージがこのように分かりやすいものとは限りません。

次のメッセージは、Administration Server 上の JMX インタフェースが使用不可能であったか、ログイン情報が正しくないことを意味しています。

```
Admin Server adminHost JMX interface
running on port portNumber is not available;
Admin Server must be running for this operation.
```

特定の問題に関する詳細な情報を調べるには、最終的なエラーブロックに到達するまで「Run History Details」リンクをたどります。エラー状態の詳細については、stderr および stdout の出力を表示します。

## WebLogic のインストールのエラーメッセージの例

この節では、WebLogic のインストール時に表示される可能性があるエラーメッセージの例を示します。

### 例 4-2 不正なユーザーのメッセージ

```
The user specified is not a valid system users: weblogic (017056)
```

システムユーザー「weblogic」を作成するか、Install 変数 weblogicUser を既存のユーザーに変更する必要があります。

### 例 4-3 ターゲットホストのエラーメッセージ

```
Specified target(s) "sol01" were not in the required host set  
"com.sun.weblogic8#SupportedHS". (017087)
```

このエラーメッセージには 2 つの原因が考えられます。

- ホストは、プラグインと互換性があるオペレーティングシステムをサポートしていない。  
この場合は、プラグインによりサポートされているオペレーティングシステムを使用するホストを選択します。
- ホストの準備ができていない。  
この場合は、「Hosts」ページにアクセスし、ホストの準備を行います。

### 例 4-4 起動ステップでのエラーメッセージ

```
Error: Installation could not be preformed check the deployment details  
for more information.
```

最終的な execNative コントロールの配備の詳細をチェックし、WebLogic インストーラからの情報を調べる必要があります。

例 4-4 起動ステップでのエラーメッセージ (続き)

次のメッセージは、stdout の出力に含まれている可能性があるメッセージの例です。

- SilentBEAHomeTask – Access to the directory is denied: [/usr/local/boa]  
このメッセージが表示された場合、インストールプランで指定されている WebLogic ユーザーは、boaHome ディレクトリの作成アクセス権または書き込みアクセス権を持っていません。ディレクトリのアクセス権を変更するか、プロビジョニングシステムのディレクトリコンポーネントを使用して boaHome ディレクトリを作成する方法があります。
- SilentBEAHomeTask – At least one item must be selected.  
このメッセージが表示された場合、WebLogic のインストールがすでにこのパスに存在しています。パスを変更するか、既存の WebLogic インストールをアンインストールする必要があります。

# 索引

---

## A

Administration Server, 削除, 38-39

## E

EAR, 「エンタープライズアプリケーション」を参照

## EJB

コンポーネントタイプ, 51-52

取得, 46

EJB の取得, 46

## J

### JAR ファイル

アンインストール, 52

インストール, 51

コンポーネントタイプ, 51-52

取得, 46

JAR ファイルの取得, 46

Java アーカイブ, 「JAR ファイル」を参照

### JMS Server

アンインストール, 57

インストール, 56-57

コンポーネントタイプ, 56-57

## W

WebLogic コマンド行インタフェース, 58-60

### Web アプリケーション

アンインストール, 50

インストール, 50

コンポーネントタイプ, 49-51

取得, 45-46

Web アプリケーションの取得, 45-46

## あ

### アンインストール

JAR ファイル, 52

JMS Server, 57

Web アプリケーション, 50

エンタープライズアプリケーション, 49

接続プール, 54

データソース, 53

トランザクションサービス, 55, 56

マルチプール, 55

メールセッション, 57-58

## い

### インストール

JAR ファイル, 51

JMS Server, 56-57

Web アプリケーション, 50

エンタープライズアプリケーション, 48-49

接続プール, 54

データソース, 53

インストール (続き)  
マルチプール, 55  
メールセッション, 57

## え

エンタープライズアプリケーション  
アンインストール, 49  
インストール, 48-49  
コンポーネントタイプ, 48-49  
取得, 44-45  
エンタープライズアプリケーションの取得, 44-45

## き

起動, クラスタ, 39-40

## く

クラスタ  
起動, 39-40  
削除, 40-41  
停止, 39-40  
離脱, 41-42  
クラスタメンバー, 削除, 41-42

## こ

構成  
トランザクションサービス, 55, 56  
コマンド行インタフェース, WebLogic, 58-60  
コンポーネントタイプ  
EJB, 51-52  
JAR ファイル, 51-52  
JMS Server, 56-57  
Web アプリケーション, 49-51  
エンタープライズアプリケーション, 48-49  
接続プール, 53-54  
データソース, 52-53  
トランザクションサービス, 55, 56  
トランザクションデータソース, 52-53  
マルチプール, 54-55  
メールセッション, 57-58

## さ

削除  
「削除」を参照  
Administration Server, 38-39  
クラスタ, 40-41  
クラスタメンバー, 41-42  
ドメイン, 38-39

## し

障害追跡, 説明, 62-64  
使用法, プラン, 62

## せ

接続プール  
アンインストール, 54  
インストール, 54  
コンポーネントタイプ, 53-54

## て

停止, クラスタ, 39-40  
データソース  
アンインストール, 53  
インストール, 53  
コンポーネントタイプ, 52-53

## と

ドメイン, 削除, 38-39  
トランザクションサービス  
アンインストール, 55, 56  
構成, 55, 56  
コンポーネントタイプ, 55, 56  
トランザクションデータソース, コンポーネントタイプ, 52-53

## は

配備サーバーの要件, 14-16

## ふ

### プラグイン

インポート, 19-22

パーツ, 13-14

配備サーバーの要件, 14-16

プラグインのインポート, 19-22

### プラグインファイル

インポート, 19-22

の場所, 19

プラン, 使用法, 62

## ま

### マルチプール

アンインストール, 55

インストール, 55

コンポーネントタイプ, 54-55

## め

### メールセッション

アンインストール, 57-58

インストール, 57

コンポーネントタイプ, 57-58

## り

離脱, クラスタ, 41-42

